

**令和元年度 第2回 明石市文化財保存活用協議会  
議事概要**

1. 日 時：令和元年12月25日（水）10:00～12:00
2. 場 所：市立文化博物館2階会議室
3. 出席者

区分 (法第183条9第2項)	氏名	所属・役職	備考
明石市（第1号）	前野 有人	明石市政策局参与（シティプロデューサー）	
兵庫県（第2号）	山下 史朗	兵庫県教育委員会事務局文化財課 課長	
学識経験者（第4号）	村上 裕道	京都橘大学 教授	会長
	森本 眞一	神戸学院大学 非常勤講師	副会長
	竹内 利江	神戸学院大学 非常勤講師	
商工関係団体（第4号）	西川 勉	明石商工会議所事務局長	
観光関係団体（第4号）	樫原 一法	明石観光協会専務理事	
その他教育委員会が必要と認める者 (第4号)	西海 英延	文化財所有者：宗教法人住吉神社 宮司	
	藤本 庸文	明石市連合まちづくり会協議会副会長	

事務局：明石市市民生活局文化・スポーツ室

（稲原昭嘉文化財担当課長、田川総司文化財係長、宮本賢治主任）

明石観光協会（秋末稔常務理事兼事務局長）

明石政策局シティセールス推進室（藤田幸子シティーセールス課長）

明石市都市局都市整備室都市総務課（森本康平都市整備室長兼総務課長）

明石市教育委員会学校教育課（植垣文夫学校教育課長）

オブザーバー：株式会社スペースビジョン研究所（宮前（保））

傍聴者：2名

**4. 資料**

- ・次第・出席者名簿
- ・明石市文化財保存活用地域計画策定に向けた資料
- ・アンケートによる歴史文化遺産一覧表

## 5. 議事概要

### (1) 開会

### (2) 議事

#### 【議事(1) 明石市文化財保存活用地域計画の素案について】

##### (第1章)

山下委員：16頁の「太寺」の名称はこれでよいのか。

事務局：太寺廃寺とする。

山下委員：平安時代の歴史は文学からの引用になりがちであるが、そうだとすると、明石といえば奈良時代に都の貴族が憧れるところだということが特色である。このため『万葉集』の引用なども含め記載を追加した方がよい。

18頁の江戸時代で元和5年に船上城が焼失した後に明石城が築城されたという記載は修正すべき。

20頁の5行目に明石城が郡立公園になったとあるが、大正7年に県立公園になったことが画期であり、時代区分を明治にするか大正にするかは別として記載を追加すべき。

22頁ではフェリーを使っていた立場からすると不便になったと思うが、そういう記載は必要ないかを検討頂きたい。

村上会長：6頁の景観については社会的状況の節に移動した方がよいのではないかと、検討頂きたい。

また、1章の3には数行の要約が記載されているが、1章の1や2にはないので要約を追加してはどうか。

歴史の背景には、古地図を記載すると古代、中世、近世の動きが見えてくると思われる。特に単発の歴史をまとめる絵が欲しい。江戸時代の城下町の古地図が残っているので、これを見れば、道が今も残っていることが理解しやすい。その点を検討頂きたい。

1章の3の要約も、もう数行拡充されたい。出来そうな箇所だけでもよいので視覚的に見やすい構成を検討されたい。

西川委員：1章については庁内で照会して確認されたい。市域の面積なども確認されたい。

森本委員：1-3の歴史的背景には地図があると良い。9月7日に市民広場で開催されたシンポジウムのパンフレットに記載されていた地図は見やすかったので参考としてはどうか。

村上会長：明石市の中心がどう動いたかを地図を記載すると分かりやすい。

竹内委員：時代の横軸と地域軸の縦軸がわかれば理解しやすいと思う。

##### (第2章)

藤本委員：明石城の建築物であるが、加古川のみとろ荘で明石城の御殿の茶室を移築したものがここにあるという話を聞いたことがある。こうしたことを調べてもよいかと思う。布団太鼓の関連で古文書などを見ていると興味を引くものがある。民俗芸能的な文化財指定は可能かなと思った。古い印なども気になるものがある。印で「明石王子酒造小泰平」、上下の泰という字になっている。その字が気になる。それを調べたいと思う。

村上会長：未指定の文化財調査についてどう考えているのか。

事務局：悉皆調査をしているがもれはあると思う。個別の調査については今後検討したい。

村上会長：調査していないその他の文化財をどうするか。調査の範囲をどうするか、優先順位をどう付

けるかについて、今後、範囲を広げるかどうか事務局で方向性を検討されたい。

森本委員：石造物の代表的な写真を入れると分かりやすいと思う。

竹内委員：市の全体像が分かり、地域毎が分かる、マップか表があればよい。

藤本委員：布団太鼓を調べているが、鳴らす太鼓の胴には年号が書かれている。民俗芸能でお祭りに使われていたことははっきりしているので、文化財にはならなくても記録になると思う。

村上会長：地域からみた文化財の整理と文化財の種類からみた文化財の整理がある。種類からの整理を変えてしまうとかえって混乱するので、地域からみた文化財の配置状況などについて全体のまとめを追加してはどうか。こうした地域の特徴や特色がまとめることができれば、3章につながると思う。

山下委員：これからは文化財の保存と活用は地域でやっていこうということになるだろう。代表的な地域では細かく拾っていきける。計画には書かれていないことが置き去りにならないように配慮すべきと考える。

村上会長：市域全体に配慮しながら、強調すべき点は強調すべきと思うので配慮されたい。

西川委員：23 頁の図がわかりにくいので工夫されたい。プラネタリウムも文化財に当たらないかと思うので検討されたい。

西海委員：24 頁の表には、所有者が記載されている。所有者は住吉神社であるが、絵馬は文化博物館で保存してもらっている。人丸神社の猿の絵も京都の博物館で保存されている。実際にこれらの絵を見るために、神社にお越しになっても見ることができない。現場にはレプリカがあることもある。今どこにあるのかが書かれていれればと思う。

村上会長：文化財の一覧表には括弧書きで現在の所在地を追記してはどうか。2 章になっても 1 章と同様、節の概要を 2～3 行で追記すれば全体が理解しやすい。

### (第3章)

山下委員：各テーマの構成遺産に古代以外の街道の歴史文化など民俗芸能を追記すべき。また、印南野の灌漑疏水など大規模な水利施設も触れてはどうか。

村上会長：37 頁の整理図にあるものがテーマ別の構成遺産に抜け落ちがないようにすべき。

森本委員：3 章は歴史文化の特徴を示していると認識している。1 章、2 章にある「地勢に育まれた」という表現を歴史文化の特徴に加えてはどうか。

村上会長：1 章、2 章で強調したものが 3 章に組み込まれているという流れが見えるように工夫されたい。

竹内委員：万葉集が明石の全国的なイメージをつくりあげ、明治の文学者の明石への来訪につながったと思われる。そうしたテーマがないのかと思う。また、近代では教育に熱心であったことや、「時」の町としての施策の推進も明石の特徴ではないか。

村上会長：モノが列挙されているがコトの部分が抜けているという意見かと思う。明石への来訪者の記録などもあるので、厚みをどう追記するかということだと思うので検討されたい。

西海委員：明石高専と商店街や文化人が集まって作成した地図を事務局に預けた。これは「たこバス」を利用して文化財を回ろうというもの。「たこバス」を乗ればどこに文化財があるかということがわかる。

村上委員：西海委員の意見は明石市の施策と連動していることも含めるべきという意見である。文化財が市の施策に貢献する部分があるということであるので配慮されたい。

藤本委員：県のがんセンターの場所は旧街道の駅家があった場所だが、説明板もないので子どもたちに説明しにくい。また、明石城の外堀が道として残っているが、それについての案内板もない。最近、マンションの計画もあると聞いているので無くなるのではないかと不安である。説明板が現場にあることは重要である。

村上会長：明石城の古絵図を説明板に記載すれば良い。がんセンターの件は県で配慮されたい。

山下委員：これから建て替えの設計段階であるので、検討する。

村上会長：5つのテーマの検討の後には、重点区域の設定についての議論が必要になる。このため、5つのテーマの構成要素の位置を示す地図を追加した方が良い。

## 【議事（2）文化財の観光への活用に関する現状と課題について】

村上会長：ここからの資料はどういう位置づけか。

事務局：現況と課題を各課から説明したい。

村上会長：福祉、教育、国際交流、産業、観光、まちづくりその他の各関連分野との連携が文化芸術基本法で掲げられている。

明石市の重点施策として前置きが必要である。まとめる際には、そこを記載すべき。

（説明 略）

村上会長：文化財がどこにあるかを3章までまとめ、観光でどう活用するかということが続く。受けて側の観光からの現況と課題となっているが、文化財側でどうすれば良いかというご意見を頂きたい。

森本委員：観光協会では明治19年の2枚重ねの地図の評判が良い。町歩きに役にたち、昔と今が分かるものが大切である。現在では、外堀がどこまでかよく分からないので、解説板があれば、案内する方も楽し、歩く方も楽しである。こうしたものを活用すればよい。

村上会長：文化財が観光活用できることとその課題について、および課題への対応について、事務局で次回までにまとめること。

竹内委員：若い世代は明石城に興味を持ちにくいだが、アニメで織田家の長屋門が取り上げられると急に興味を持ってくる。話題性のあるキャッチーなものも入れていくのが必要ではないか。

村上会長：グーグルの地図で昔の道が分かる時代である。津山市では文化財のデータを入れ込んでいるこうした技術を使っている。地図の専門家がつくるのとは違う文化財が分かる地図をつくる時代になっている。

竹内委員：地域毎、時代毎にクリックすれば地図で分かる時代である。

村上会長：素材の提供の仕方として文化財はどこまでやるのかということも検討課題である。

西海委員：スマホがあれば解説板がいらない時代かもしれないが、ボランティアガイドが案内する際にも解説板を利用している。また、以前はあった解説板も撤去されて無くなっている。各地に解説板があってわかりやすかった。スマホを触れない人もいる。迷う人もいる。何か方法があればと思う。

村上会長：今は過渡期かもしれない。

西海委員：文化財は写真が素晴らしくても現場に行くと周辺は文化財にそぐわない場合がある。建物の文化財の周辺も含めて文化財であるということが重要だと思う。

前野委員：ウォークラリーをみんなでする場合、一人で回る場合があるが、スマホの活用が必要である。

今はARもあり、明石城に写真を合わせるとお堀がでてくる。現在ではサーバーを構築して

もそんなに費用がかからない。明石城の保存活用計画も策定しているので、策定が出来た段階で入れ込んでいくのがチャンスであると思う。

村上会長：どういう方向に向けた記述をするか、課題と方向性をまとめる際に参考とされたい。

### 【議事（3）文化財の学校教育への活用に関する現状と課題について】

森本委員：先日、新任の先生向けの研修を実施したが、今年は40人のうち明石出身者は10人位であった。先生には校区を歩いて欲しいと伝えている。校区を歩いて文化財等を確認して欲しいと伝えた。魚住や江井島ではまちづくり協議会に歴史環境部会を作って地域の文化財をまとめた冊子を作っている。部会のメンバーが学校に出向いて子どもたちに説明することも可能である。生涯学習でやっていくことや、地域との連携が重要である。可能な限り進めて頂ければと思う。

山下委員：来年度から学習課程が変わり、時間が足りなくなっていることは聞いている。県としてもふるさと教育に取り組んでいる。地域全体で歴史文化に愛着を持って頂きたいと思っており、文化財課としては支援したいと考えている。市でも協力頂きたい。県で所管している県立博物館でも先生向け研修を位置付けている。これも充実できるように考えていきたいと思っている。

村上会長：明石市は7頁にも示すように県下では人口増の都市である。未就学児も多い。今はチャンスである。この子どもたちにどう明石のことを意識づけるかに成功すれば良いと思うが、その対応への時間は限られる。文化財だけでなく、人口構成を見て、市の施策として明石を大事に思う人を育てることは教育分野と連動する施策である。文化財は単なるツールである。その辺りを学校現場でも検討頂きたい。

指導要綱にあてはめて校区に文化財があればそれを使うことできる。この場合、校区内に歩いていける範囲にある指定文化財だけでなく未指定の文化遺産も使って、明石らしい教育を進めてはどうかと思う。校区内には必ず文化遺産があると思う。どう貢献するかを記載するかを検討すべきであろう。学校でここまでやろうとしている自治体は他にはあまり見られない。そのことを考えると文化財分野はよく考えないといけないと思う。この点については改めて議論したい。

### 【議事（4）文化財の保存・活用に関する課題について】

村上会長：2つの文化財の保存・活用については、今後の計画のなかで課題を受けた方針などに関連してくると思われる。事業は総合計画と連動するものとなる。方針と事業は書き分けることも必要である。事業系について、重要視しているということを文化財部局から提案があったと認識することとしたい。

### （3）その他

事務局：次回は3月6日（金）14時～16時とする。

### （4）閉会：村田充市民生活局文化・スポーツ室長